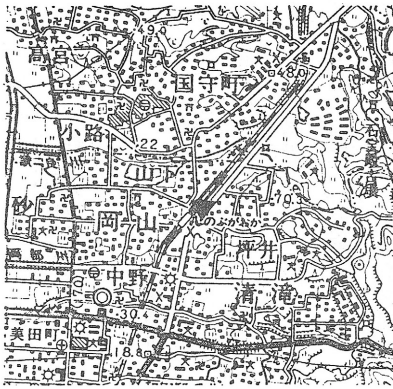


大阪・忍ヶ丘駅前遺跡
しのぶがおか

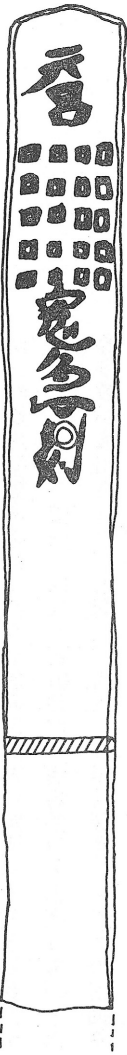
- 1 所在地 大阪府四條畷市岡山
- 2 調査期間 一九七六年(昭51)二月～四月
- 3 発掘機関 四條畷市教育委員会・四條畷市文化財研究調査会
- 4 調査担当者 野島 稔
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代中期、鎌倉時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

忍ヶ丘駅前遺跡は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の標高約二五mの丘陵地形を利用して立地している。国鉄片町線忍ヶ丘駅を中心とする約四五〇〇mの範囲が周知の遺跡として知られている。

一九七六年に枚方信用金庫忍ヶ丘支店建設が計画さ



れたため、四條畷市教育委員会・四條畷市文化財研究調査会が事前発掘調査を実施した。この付近は、古墳時代を中心とする遺物の散布が認められていたが、調査の結果、古墳時代の遺構面は削平されており、鎌倉時代末から室町時代の遺構が検出された。遺構としては、柱穴、井戸跡および溝等があり、木簡は幅約五m、深さ1mの南北方向に流れる溝の最下層から出土した。

8 木簡の积文・内容



怨霊を退散せしめるための呪符であると考えられる。中央部に径〇・三cmの穿孔が表からなされており、釘で打たれた可能性が強い。

9 関係文献

四條畷市教育委員会『忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・Ⅱ』(一九八三年)

大阪府立泉北考古資料館『記された世界』(一九八三年)

(野島 稔)